

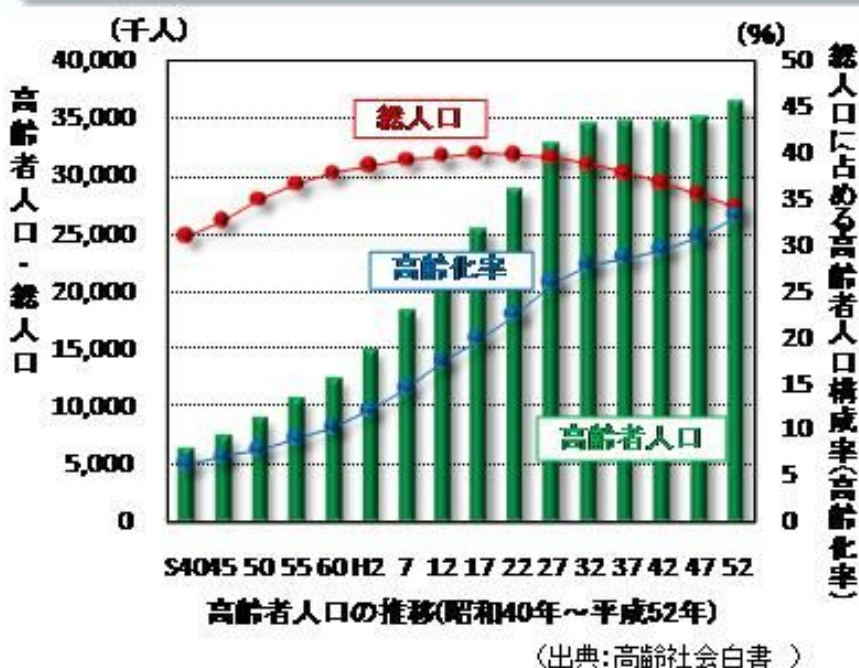
あんしん歩行エリア

歩行者や自転車利用者の安全な通行を確保するため、市街地において緊急に死傷事故抑止対策の必要な地区

あんしん歩行エリアの必要性①：交通事故の増加



あんしん歩行エリアの必要性②：交通弱者の増大

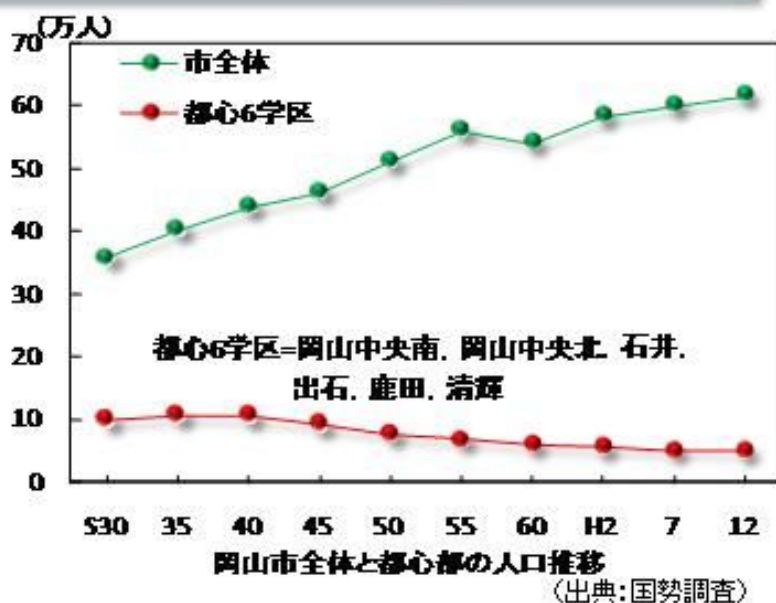
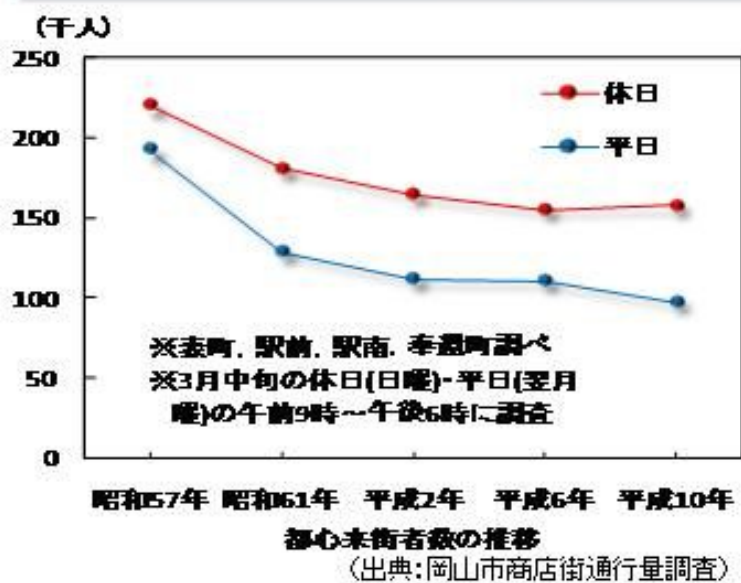


・高齢者の急増
 <高齢化率>
 20% (2005年)
 ↓
 30% (2030年)
 ・公共交通のサービス低下



・交通弱者の増加
 ・バリアフリーの必要性

あんしん歩行エリアの必要性③：中心市街地問題



あんしん歩行エリアの目標

対策実施エリアにおいて (平成15~20年度)

- 死傷事故件数 **2割抑止**
- 歩行者・自転車による死傷事故件数 **3割抑止**



住民参加型ワークショップでの取り組み

岡山市中心部のあんしん歩行エリア



市民参加ワークショップ (表町・本町)

- ◆実際に歩いてみて、対象エリアの現状を把握 (交通安全総点検)
- ◆ヒヤリハット地図を作成し、安全で歩きやすい街のための改善案を提案

交通安全総点検



ヒヤリハット地図の作成



社会実験の実施（表町）（平成17年10月16日～28日）

路上仮設駐輪場の設置

- ◆歩道上に仮設駐輪場を設置
- ◆利用状況や路上駐輪台数を調査



既設駐輪場利用促進対策による効果の調査

- ◆有料駐輪場の無料化・チラシ配布
- ◆既存駐輪場の利用状況を調査

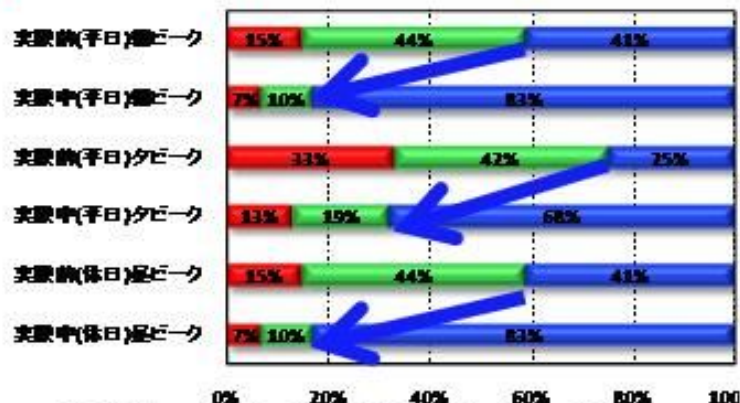


自転車・歩行者の通行分離による効果の調査

- ◆白線やコーン等で通行帯を分離
- ◆どのように受け入れられるかを調査



■危険と感じる(0～50cm) ■危険と感じない(50～100cm) ■安全である(100cm以上)



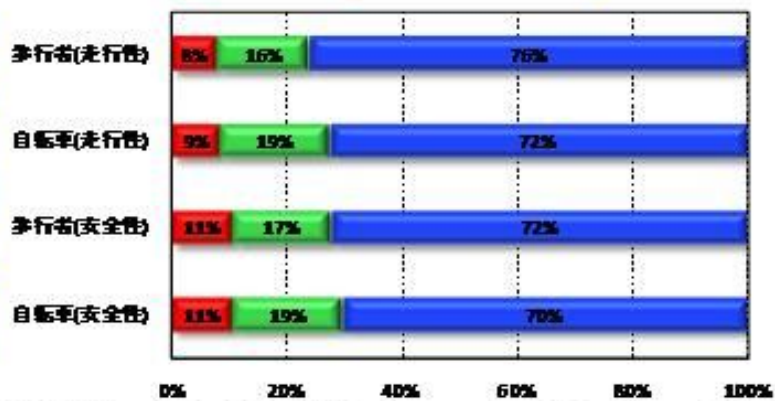
歩行者・自転車の接近度合の変化

イメージハンプ設置による効果の調査

- ◆事故が多い交差点にハンプを設置
- ◆自動車の走行状況の変化を調査



■悪くなった ■どちらともいえない ■良くなった



通行性・安全性に関するアンケート調査の結果

(出典:あんしん歩行エリア「自転車と共存する町づくり」実験結果報告)